

勉学の旗 (高須中学校だより)

平成30年10月31日号 高須中学校長 山口和久



※ 今回は、「全国学力・学習状況調査」についての特集号です。

平成30年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語, 数学, 理科)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

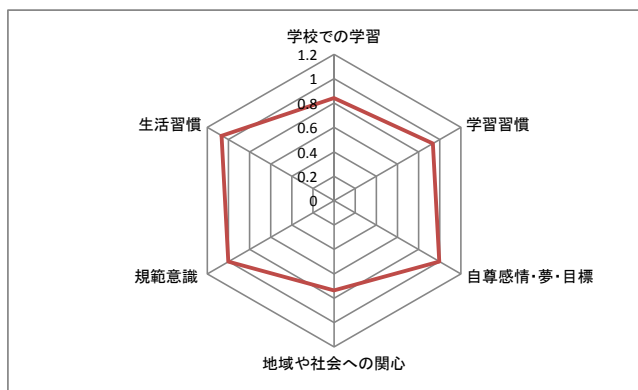
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語A	平均正答率は全国平均とほぼ同程度であった。読むことの領域では、全ての問題において全国平均よりも高い正答率であったが、言語についての知識・理解・技能の問題では、無解答が多く、正答率も低い。	同程度である
国語B	平均正答率は全国平均とほぼ同程度であった。視覚的資料と文章との関係を考えながら内容を捉える点で課題が見られる。	同程度である
数学A	全国平均を下回ったが、資料の活用の領域の問題は正答率が全国平均を大きく上回った。図形領域の問題の中には、無解答率が高い問題もあり、課題が見られる。1・2年生の復習を行いながら、今後の学習を進めていく必要がある。	下回っている
数学B	全国平均とは同程度であったが、図形や関数の領域の正答率が全国平均を上回った。特に図形の証明や事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する問題の正答率が高かった。また、情報を分類整理し、不確定な事象の確率を求める問題に課題が見られた。	同程度である
理科	全国平均とは同程度であったが、主として「知識」に関する問題は全国平均を上回った。新しい実験方法などでも、既存の実験との共通点を考えられるようにする必要がある。また、実験や身近な現象から本質を見出すことに課題が見られた。	同程度である

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

- ・家庭学習が定着しておらず、1日1時間以上の家庭学習に取り組む生徒は6割程度である。1学期末の学校独自のアンケートを見ても変化がない。
- ・将来の夢や希望をもっている生徒や、人に役に立つ人間になりたいと思っている生徒の割合は全国平均と同じくらいである。それぞれの夢を実現させるためにキャリア教育を行うとともに、具体的な目標設定を行い、行動に結びつけていかなければならない。
- ・地域の行事に参加する生徒や、地域や社会で起こっていることに関心を持っている生徒の割合が極端に低いのが課題である。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

めあてとまとめの整合性が図られたパターン化された授業の実施と、学習した内容を実生活に結び付け、それを活用する力を高めるための教材作り、深い学びにつなげる話し合い活動の充実など、今後も学校全体で授業改善を推進し、授業力の向上を図る。

② 家庭生活習慣等に関する取組

地域清掃やボランティア、部活動の地域行事への積極的な参加などを推進し、シビックプライドを醸成していく。定期的な生活アンケートを実施して、生徒の生活習慣を把握した上で、教育相談や保護者懇談会、通信などを通じて、生徒・保護者に家庭学習の大切さを啓発していく。